

鎌田浩毅監修
「火山の大研究」について

宮城 磯 治*

Book Review: Awesome and Wonderful Tour of the Volcano World
edited by Hiroki KAMATA

Isoji MIYAGI*

鎌田氏は2000年の有珠山・三宅島噴火のおり減災に必要な火山学の基礎知識が一般の人に分かり易い形で提供されていないと感じて以来、火山の魅力を面白くわかり易く伝える本の執筆を続けた。火山はすごい(2002)、地球は火山がつくった(2004)に続き、平易な表現を追求した結果、ここで紹介する「火山の大研究」はついに児童書となった。本書の特徴は、豊富なカラー写真とイラスト、平易で簡潔な文章、全ての漢字にふられた振り仮名、小学生の手荒な扱いに耐える造り、そして特別な場合を除き全ての話題が見開き2ページ内で完結する事である。

最初のページ「火山のパワーはこんなにすごいぞ!」は、刺激の強い見開き写真(ハワイの割れ目噴火)で読者の目をひく。続いて「知ってた? 火山の7つのふしぎ」は、興味関心の高そうなトピックへ読者を誘導する。プロローグ「不思議と驚きが一杯! 火山の世界を見てみよう!」は、鎌田氏が火山好きになった理由と火山の恩恵を語る。本書の読者は章立てを活用しないと思われるが、本書は以下の3章から成る。第1章「地球の正体としくみ(地球は元気に生きている!)」は、最初に火山と火山以外の山とが異なることを認識させる。次に読者の視野を地球規模にまで広げ、マントルで発生したマグマが火山をつくることや、火山には色々な種類があることを紹介する。第1章中の「さあ、やってみよう」というコーナーは、サイダーを使った実験を通して、噴火のメカニズムを理解させる。さらに様々な火山噴火現象が解説される。それらは溶岩流、溶岩ドーム、火山弾、軽石、火山灰、火山ガス、火砕流、岩屑なだれである。再び「さあ、やってみよう」コーナーが、身近な材料を使った地

殻変動と溶岩噴泉を体験させる。第1章は降下火砕物と火山学者の仕事(調査・研究)の紹介で締め括られる。第2章「火山からのおくりもの(地球がめぐんでくれる)」は、火山の恩恵を語る。それらを列挙すると、水の涵養、景観、地熱発電、スキー場や温泉、農地、石材や金鉱床、である。第2章も火山学者の仕事(テレビ出演と書籍の執筆)の紹介で締め括られる。ここまでで紙面の約8割が使われた。第3章「噴火と災害(火山のことをよく知ればもう安心)」は、災害対策を述べた。日本には火山噴火予知連絡会があり噴火は予知できること、そして仮に噴火が起きても防災システムが整備されているから安心だと述べた。実例として2000年の有珠山噴火を挙げ、この噴火では予知が成功し、一人の犠牲者も出さずに済んだと述べた。第3章は富士山の噴火可能性とその対策で締め括られた。第3章だけはモノクロ印刷である。そのため読者の目はより色鮮やかな他章へと誘導されてしまう。これは多感な児童に恐怖心を与えず火山の面白さを伝えるための配慮なのだろう。

このような本は、火山学の裾野を広げるうえで重要な役割を担う。カバーフラップの「火山学者になりたいキミへ」という大きな文字は、10年後の人材に語りかけている。本書の対象読者は小中学生だが、豊富な写真のおかげで、文字の読めない幼児でも楽しめる。これには波及効果がある。例えば病院の待合室等で親子が本書を手にするシーンでは、文字の解説を求められた親も火山の知識を得るだろう。のちにその親が噴火の報道を耳にした際に、基礎知識のあるなしが理解度の差となるだろう。最後に要望を挙げると「さあ! やってみよう」のレシピは児童には身近すぎ、新鮮味に欠ける。18ページの栗駒山の位置ズレなど、修正を要する図版もある。またイラストの鎌田さんにはねじり鎌かハンマーを持たせてほしかった。…次は漫画の中でお会いできますか?

(79頁、定価2,800円(＋税)、2007年8月17日 PHP 研究所発行、ISBN978-4-569-68730-8)

* 〒305-8567 茨城県つくば市東1の1の1
産業技術総合研究所・地質調査総合センター
Geological Survey of Japan, AIST, 1-1-1 Higashi,
Tsukuba, Ibaraki 305-8567, Japan.
e-mail: miyagi.iso14000@aist.go.jp